

## 変革に向けて若者たちを力づける～タリタクム日本との歩み

タリタクム日本運営委員

クラリタ サンチェス



タリタクム日本に 2021 年に加わって以来、私は人身取引の撲滅に取り組む次世代のリーダーたちを支え、指導することに力を注いできました。タリタクムは、カトリックの信仰に基づく国際的な団体であり、人道に反するこの犯罪行為を根絶するために尽力しています。その中で私は、タリタクム・ユース・アンバサダー(TKYA)のアドバイザーを務めており、若者たちと密接に関わり、地域社会において彼らが社会正義を推し進められるよう力づけています。

私は TKYA の方向性を示し、そのビジョンが世界におけるタリタクムの使命と一致するよう尽力しています。若者主導の取り組みには力があると信じ、若者のリーダーシップを育むことに情熱を注いでいます。そして、支援と指導を続ける中で、彼らが影響力のある存在として成長していくのを、目の当たりしてきました。彼らは学校や教会で出前授業を実施し、人身取引の現実について認識を高め、行動を起こすよう若者たちを促してきました。若者には変化をもたらす計り知れない可能性があるかと、私は確信しています。適切なツール、リソース、知識を備えれば、彼らは人身売買に反対する力強い提唱者になれるのです。

タリタクム日本との関わりは、とても充実したものでした。力を合わせれば人身取引は根絶できるという信念が、献身的で思いやりのある人々、特に若者たちと協力する中で、さらに強まりました。TKYA の若者を育み、指導することにより、直近の活動を超えて、波及効果を起こし、より多くの若者が人身売買との闘いに加わり、人間の尊厳を守るために活動するようになることを、私は目指しています。

若者が理解と自信を深めていくのを見守ることは、とてもやりがいのあることです。彼らが活動に注ぐ情熱とエネルギーは、私を奮い立たせ、彼らの変革者としての成長を促し続ける原動力となっています。

私はタリタクムの使命のために働き、人身取引と闘い続ける歩みを今後も続けていきます。この重大な目標のために貢献できることに感謝し、使命を果たす中で、TKYA がさらに力強い存在になっていくのを楽しみに見守ります。人身取引が無くなり、皆が自由と尊厳をもって生きることができる未来を、わたしたちは共に築くことができると確信しています。



## タリタクム日本 秋のオンライン・セミナー 「子どもと若年女性への性的搾取と人身取引～搾取のない社会に向けて」

タリタクム日本運営委員長  
シスター弘田 しずえ（ベリス・メルセス会）

2024年11月9日（土）開催されたオンライン・セミナーについて報告いたします。児童ポルノやアダルトビデオ出演被害、JKビジネス、買春など、日本においてもネット社会が拡大するなか、子どもや若年女性を対象とした性的搾取の状況は深刻化していますが、今回のセミナーでは、子どもたちに対する性搾取を防止するため、日本や海外における人身取引の実態について啓発活動を行う一般社団法人「ゾエ・ジャパン」の秦地浩未さん、若年女性のAV出演強要やリベンジ・ポルノ被害相談支援に取り組む特定非営利活動法人「ぱっぷす」の岡 恵さんから、衝撃的な現状報告を受けました。

「ゾエ・ジャパン」は、人身取引業者から子どもたちを救い、子どもたちに新しい人生を与えることを目的として、防止、救出、回復の具体的な活動を展開しています。回復とは、両親のもとで安心して成長できるのと同じ環境を作り、被害を受けた子どもを守ることを意味します。性的搾取の起こる背景には、多くの子どもが、家で虐待を受け、家に居られず、空腹を抱え、町に出るという現実があります。このような若年女性を対象とする産業は、JKビジネス、コンカフェ、メイドカフェなど多くありますが、いずれも裏オプションとして性搾取につながり、また、寂しさからホストクラブの売掛にはまり、そのために援助交際、パパ活を続け、まさに奴隷となる現実が、私たちの身近で起こっているのです。商業的性的搾取を増大する手段は、SNSによる顔の見えない関わりから、セックスティング（性的なメッセージ、画像のやりとり）、さらにセックストーション（性的な画像、映像、メッセージ入手し、それをネタに相手を脅し、金を強要する）などが、子ども、若年女性を対象にして、多く起こっています。多くの若者が、性についての知識を得るのは、親や学校ではなく、90%以上が、マンガ、アニメ、ゲーム、AVなどで、性に関する加害、被害は当然であるとする、極めて誤った認識が、当たり前考え方として存在しています。性と人格の尊厳について、いやなことは、いやと言える自由と、対等な人間関係について、人間教育の必要と重要性を改めて感じました。



続いて「ぱっぷす」の岡恵さんから、アダルトビデオへの出演を「巧みに」強制される若年女性の現実について、極めて具体的に説明を受けました。「ぱっぷす」は、デジタル性暴力やAV業界・性産業などで受けた困りごとの相談支援窓口として、本人の意に反して拡散した性的画像を削除する活動、アウトリーチ活動、アドボカシー活動、広報・啓発活動などを行っています。また、ゆっくり、くつろげる空間としての夜カフェ、宿泊可能なシェルターも経営しています。

アルバイトを探し、アイドル、タレントになる夢を持っている若年女性に「モデルにならないか」と誘いをかけ、連れまわし、言葉巧みにモデルとしての就職をOKさせ、徐々に体を見せるプロセスに導き、拒否すると、多額の違約金の

支払いを強要し、親、学校などに連絡すると脅す、暴力、脅迫により、本人を支配下に置き、逃げ場のない状況に追い込み、AVの撮影となる。泣いている本人、苦しんでいる姿もエンターテインメントとして販売されるわけです。また、嫌がる子ども、若年女性に性を強要する映像が、世界的に、販売市場を広げています。私たちは「セックスは買える」ことがエンターテインメントとなっている時代に生きています。世界規模で女性と子どもの性的搾取が定着化し、性的搾取がもたらす莫大な収益により維持・強化されています。それを覆すことは並大抵ではありませんが、「ぱっぶす」ではこの2年間で、AV出演被害防止救済法・不同意撮影罪・性的グルーミング罪が成立したことを通じて社会を変えていくことができました。会場からの質問で、「アダルトビデオは禁止されるべきと考えますか」に対して、岡さんは、「子どもが性を強要されるようなAVは、禁止されるべき」と答えています。

性は、それぞれの人格を尊重する愛の究極的な表現として、喜びと感謝のうちに祝う行為です。このような愛の表現は、それぞれが、自分として、そして共に成長する讃歌とも言えるでしょう。一方、性的同意のない性は、支配としての性、暴力の表現であり、被害者、加害者の人間性を否定するものです。

このオンライン・セミナーから、私たち一人一人に示された課題は、人間が人間として、尊厳を保ち、生きられるような社会に、この日本を、そして世界を変える責任であろうかと思えます。現代の奴隷制度である人身取引への取り組みへの意識と関心をさらに広め、深めることができますように。



ゾエ・ジャパン  
<https://www.gozoe.jp>



ぱっぶす  
<https://www.paps.jp>

## タリタクム・ユースアンバサダーからの呼びかけ

タリタクム日本ユースアンバサダー代表  
細井 梨世



タリタクム・ユースアンバサダーも発足してから、早3年が経ちました。多くの方々に支えられながら、ここまで活動を続けることが出来ました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

そこで、今回は私たちの活動の軸となっている出前授業について皆さんにお伝えしたいと思います。そして、この記事を通して、私たちの活動について知っていただき、皆さんの学校や共同体に「タリタクム・ユースアンバサダーを呼んでみようかな」と思っていたら嬉しいです。

出前授業もこの3年間で大きく変化しました。

活動当初は、教えることに重きを置いた、情報を伝えることがメインの授業を展開していました。しかし、生徒たちの心には響いていないように感じ、自分たちの伝えたいこと、自分たちに求められていることは、他にあるのではないかと考えるようになりました。

インターネットでなんでも調べることが出来る時代、情報を得ることはとても簡単です。

私たちがわざわざ出向いて授業する意義は、同じ若者が社会問題に関心を持って取り組んでいる姿勢、自分にできることを自分なりの方法で頑張っている姿を通して、心に響かせていく所にあると気づくようになりました。イエス様が十字架への旅を通して神様への愛を示したように、私たちも自分たちの姿を通して、伝えられることがあるのではないかと。



そこから、授業では、メンバー個人に焦点を当て、タリタクムで活動するモチベーション、思っていること、考えていること、伝えたいことなどを話す時間により多く割くようにしました。そうすることで、自分に引き付けて考える生徒が増えたように感じています。

また、私たちが出前授業を通して出会う若者はすでに大きな力を持っています。授業内での振り返りやケーススタディの際に聞かれる、多種多様な視点や考え方、思いやりの深さ、希望に満ちた夢、社会に向き合う真剣さには毎回驚かされます。そのような若者たちに出会えたからこそ、教える授業ではなく、考えるきっかけを与えられるような授業にする必要性に気づくことができ、活動の幅をさらに広げることができました。



私たちはより多くの若者が、社会問題に関心を持ち、自分なりのアプローチで行動を起こすことを望んでいます。そして、私たちの出前授業がそのきっかけとなれば嬉しいです。また、私たちメンバー自身も仲間の若者たちの良きインスピレーションとなるように、いつのときも祈りの心を持ち、神の子として与えられたお恵みを分かち合いたいと思っていますので、これからもご支援のほどよろしく願いいたします。皆さまの出前授業のお申し込みをお待ちしております。

## 人身売買禁止ネットワーク(JNATIP)の活動から

タリタクム日本運営委員

山岸 素子



人身売買禁止ネットワーク(Japan Network Against Trafficking In Person、以下 JNATIP)は、人身売買、暴力や搾取、滞日外国人への人権侵害などの問題に取り組む全国の NGO、研究者、法律家などが連帯するネットワークです。人身売買の根絶をめざし、人身売買、奴隷労働の根絶のために協働し、ネットワークとして政府と社会に働きかけを行っています。タリタクムも JNATIP の構成団体として、政府との意見交換会やセミナーなどの啓発活動に参加しています。

2024 年度の活動としては、4 月 17 日に「子供を含む性的搾取の実態～搾取をなくすための迅速な行動を～」の開催、その後、恒例の秋の 2 回にわたる政府意見交換会の準備を行ってきました。

10 月 28 日に開催された第一回の政府との意見交換会では、労働搾取と人身取引対策全般について、JNATIP 側からの要請と政府回答、意見交換会がありました。この意見交換会は、人身取引を撲滅するという共通の目的にむかって官民が連携するという目的のもと、毎年、内閣官房からの呼びかけによって開催されているものです。政府側からは、人身取引省庁連絡会議の事務局の内閣官房をはじめ、内閣府、警察庁、法務省、厚生労働省、外務省、経済産業省などの担当者が出席しました。

労働搾取については、今年 6 月の法改定により、技能実習制度に変わり新たに創設される育成就労制度について、また国家戦略特区における家事労働者、留学生などに関する労働搾取について要請しました。JNATIP 側からは新たな育成就労法の施行にむけて、本人の意向による転籍の扱い、多額の債務負担について、その他、法改定で議論にならなかった人権侵害行為として、頻発する暴力や技能実習生の意思に反する強制帰国、妊娠出産に対するさまざまな制約や、低賃金構造などを指摘し、今回の制度の見直しの中で迅速に対応を行うように要請しました。人身取引対策全般に関する要請のなかでは、今回特に、国内法による処罰規定の問題、また被害者認定の問題などを中心に意見交換を行いました。第 2 回は性的搾取をテーマに、11 月 21 日に開催が予定されています。

さる 10 月 17 日に、スイスのジュネーブにて国連の人種差別撤廃委員会(CEDAW)による日本報告審査がありました。その後、10 月 29 日には委員会による日本審査に関する総括所見が公表され、日本の人身取引の状況をふまえ、政府に対する改善勧告が出されました。この CEDAW 日本審査にあたっては、日本女性差別撤廃 NGO ネットワークが NGO レポートを提出し、その中で人身取引に関する項目を JNATIP が担当していました。人身取引をめぐる日本での取り組みの改善に向けた勧告を日本政府が真摯に受け止めることを願います。



## 取り戻した笑顔

タリタクム日本運営委員  
シスター狩野 敦子(礼拝会)

「技能実習生がパスポートを雇い主から取られ、解雇されそうになっています。会社側と交渉するまでの期間、本人の安全な居場所が必要です。何とかありませんか？」という相談がタリタクム日本にありました。Aさんはまだ1年が経過したばかりで、実際はあと2年間滞在できるのです。「交渉して、1か月くらいで解決できる見込み」ということも付け加えられていました。景気が悪くなると弱い立場の人が真っ先に解雇されるとか。時は師走です。シェルター窓口のタリタクムメンバーはシェルター受け入れを修道会に依頼するにあたり以下の点を考慮しました。

Aさんは日本語があまり話せない/(母国語は英語ではない)通訳を探すことはこの期間困難なように思える/  
年末年始に修道会に頼めるかどうか分からない/その間支援団体とのコンタクトは難しい/年末年始 Aさん  
に生活面で同伴することは欠かせない/1ヶ月で終了するかは疑問。

12月中旬に、ある修道会運営の施設に相談したところ「空き部屋があります」という返事が返ってきました。年末年始でも施設スタッフがいるし、遠距離ではあるが緊急の時には、日本の別の修道院に居住しているこの修道会の会員が、電話かオンラインで本人と母国語で話すことが可能だということも見えてきました。そのためご本人はご用納めまであと1週間という頃にやってきました。3メートル離れたところにある修道院から高齢、若手シスターたちが、「Welcome」を伝えに来ました。

Aさんは、母国に母親、夫、子供たちがいて、お母さんの治療費と子どもたちの教育費を稼ぐために来日したそうです。年が明けて1年半ば、Aさんの母国で宣教活動を行っていたシスターが修道院を訪問した際、Aさんにも会って母国語で話しました。Aさんはシスターたちとスタッフ大勢が集まっている時、皆のためにスイーツを作って差し入れてくださいました。母国語で話せてうれしかったのが、脇に居てひしひしと感じられました。

2月中旬 支援団体が次の就職先を探してくれましたが、なかなか決まりませんでした。Aさんは元気を失いそうになりつつも、自分の食べたいものを作って、日本語の勉強も検定試験を目指して始めました。(この時点で2か月弱が経過)

4月に技能実習生のための検定試験を受験し、5月13日に合格しました。6月には就職先が決まり、シェルターを出て転居。以前と同じような工場で働くことになりました。滞在期間は173日でした。この間、本人の生活を支えるため、施設への支払いが生じましたが、支援団体、カトリック難民移住移動者委員会からの援助、修道会宣教会多文化共生緊急支援基金を活用して経済面で支援しました。

Aさんは素敵な微笑みをたたえながら再出発をしました。技能実習生としていられる3年が経過するまで、きっとがんばるでしょう。

## 若者の声

### 「第2回タリタクム総会に参加して」



タリタクム日本ユースアンバサダー  
マリエル・アデン・ルビオ

昨年5月、私は第2回タリタクム総会に出席するため、ユースアンバサダーを代表してローマに赴きました。タリタクムの広大なネットワークに触れ、私たち一人ひとりに神が働きかけておられることを目の当たりにし、驚きと感動を覚えました。

1日目には、各国のタリタクムがそれぞれを象徴するシンボルを持ち寄りました。71カ国から153人の代表が集まり、すべてのタリタクムのグローバルな統合について討議されました。その結果、優先課題として3つの重大な課題が浮上しました。1)移住、2)新自由主義、3)サバイバー(逆境を生き抜いた人)です。移住はグローバル化や気候変動を要因としていますが、搾取の増加をもたらします。タリタクムがネットワークとして進展するためには、テクノロジーやソーシャル・メディアによる人身取引を含む、新しい形の人身取引について考えなければなりません。さらに、健康危機は科学目的の臓器売買に拍車をかける可能性があります。こうした状況においては、人工知能の役割も見逃せません。そして最後に、「この先どうすればいいのか?」という問いかけがなされ、持続可能性、若者の役割が強調されました。一人の若者として、私は希望を感じ、参加する機会を与えられたことに感謝しました。ネットワークを多様化し、若者の参加を促すことは将来にとって有益であり、人々の間の意識を高めます。

2日目は、女性、子ども、サバイバーのエンパワーメントに焦点が当てられました。どうすれば苦しんでいる人をうまくサポートできるのか?これは極めて重要な問題です。特に女性は性的搾取に対して最も弱い立場にありますが、男性も被害者になりうることも忘れてはなりません。どのように教え、保護するのが最善なのかという問題は、今後、タリタクムが取り組むべき課題のひとつです。サバイバーから話を聞き、知識を得ることにより、私たちはより積極的になりました。グループディスカッションで、同じテーブルにいた仲間の言葉が耳に残っています。「ただ愛するのではなく、行いをもって愛そう」。人身取引は強制移住から影響を受けることは疑いようありませんが、気候変動によっても悪化します。そのことが3日目の焦点でした。移住者に寄り添う人は、大きな責任を担います。人間中心のアプローチが必要であり、すべての移住者を守られなければなりません。



最終日には、ユースアンバサダーが各国で行っている活動を発表しました。現段階では活動の規模は小さくても、これから成長すると私たちは確信しています。地域社会に働きかけることにより、事態を変えていくのです。「思いやりを行動に移す」というテーマのもと、私の心は本当に変わりました。私は、より多くの若者がこの活動に加わるようお願い、人身取引への意識をこれからも高め続けたいと思っています。「怖がらなくてもいいのです。神は小さい者を愛してください。思いやりをもって人身取引を根絶する努力を続けましょう。」

## タリタクムによる出前授業のご案内



人身取引はグローバルな問題ですが、私たち一人ひとりが意識し、行動しなければ根絶できません。タリタクム日本は、人身取引を他人事ではなく、自分事として捉えるよう、次世代の若者たちを促すために出前授業を行っています。

ユースアンバサダーによる「人身取引コース」と、専門家による「移民難民コース」があります。すでに12か所のカトリック校や小教区で、グループディスカッションを用いた参加型の授業を行い、ご好評をいただいています。英語による授業もインターナショナル・スクールで行っています。

本誌4ページの紹介記事と、左のチラシをご覧ください。

(バックナンバー15号P4、14号P3、13号P5も併せてご参照ください)

出前授業をご希望の際は、以下のサイトか右のQRコードからお申し込みください。

<https://forms.gle/btoNftesZWVTf6zr9>



## 「世界人身取引に反対する祈りの啓発の日」(2月8日)

聖ジョゼッピーナ・バキータの記念日である2月8日「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」は、2025年は土曜日に当たります。タリタクム・インターナショナルによるプログラムの詳細は未定ですが、決まり次第お知らせしますので、是非、ご参加ください。

### 募金のお願い

「タリタクム日本」では、人身取引被害者の救済活動や啓発活動など今後の活動のための募金をお願いしております。ご協力よろしくお願いたします。

郵便振替口座 00110-8-560351

加入者名 日本カトリック難民移住移動者委員会

「タリタクム日本活動支援」の欄にを入れるか、

通信欄に「タリタクム日本」と明記してください

日本カトリック難民移住移動者委員会

電話:03-5632-4441 FAX:03-5632-7920 E-mail:jcarm@cbcj.catholic.jp